11. 日本周辺国際魚類資源調査（受託研究費）

11. 1　日本周辺クロマグロ調査事業

担当者　　調査研究部　　藤岡　崇

（1）　目　的

国連海洋法条約ではかつお･まぐろ類等の高度回遊性魚類について，沿岸国及び漁業国が直接もしくは適当な国際機関（北太平洋マグロ類暫定科学者委員会）を通じてその保存・管理に協力することになっている。我が国周辺においてはクロマグロなどが来遊し，各種漁業により漁獲されている。本事業は，我が国海域および隣接する公海を回遊するマグロ類資源の資源評価および適切な資源管理方法を確立するため，科学的なデータを収集することを目的とし，独立行政法人水産総合研究センターの委託を受け実施している。

（2）　経過の概要

漁獲状況調査

中央水試資源管理部と共同で，渡島，後志支庁管内の７漁協（余市郡，東しゃこたん（古平，美国），寿都，島牧，松前さくら，福島吉岡，戸井）を対象に，日別，漁法別（定置網，釣り，延縄），銘柄別（メジ・マグロ等），製品別（ラウンド・セミドレス）のクロマグロの漁獲尾数と漁獲重量を調査した。また，支庁別漁獲量を調査した。

（3）　得られた結果

漁獲状況調査

北海道におけるクロマグロの漁獲量は（図１），1985年には1,200トンを超える高い水準を示したがその後減少し，1990 年代は 200 トン前後で推移した。2000年以降は増加し，2005年には837トンの水揚げがあった。2010年は前年を下回り299トン（暫定値）であった。

近年では渡島支庁管内の漁獲量が全体の約９割以上を占めており，2010年には渡島支庁管内で298トンの水揚げがあった。

渡島管内の３漁協（松前さくら，福島吉岡，戸井）で水揚げされたクロマグロの重量組成（主にセミドレス）を図２に示した。水揚げされたクロマグロの重量範囲は4.7～363kgで，10～20kgの個体がもっとも多く，次いで20～30kgが多く漁獲された。20～50kgの

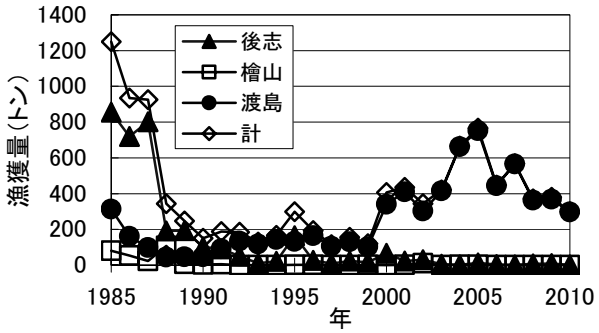

図１　マグロ漁獲量の推移

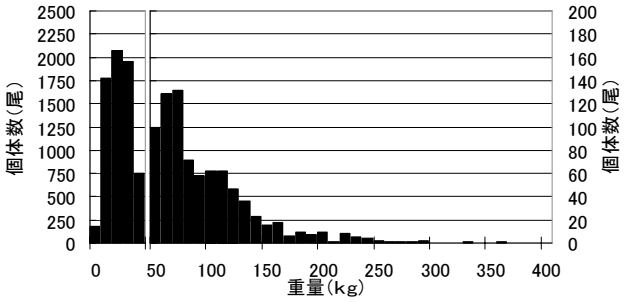

図２　クロマグロの重量組成（主にセミドレス）

個体はそれぞれ750尾以上，50～80kgはそれぞれ100尾以上，80～120kgはそれぞれ60尾前後漁獲された。

なお詳細については「平成22年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告書，2011年３月，独立行政法人水産総合研究センター」に記載した。